

# 川口中学校 だより

平成22年12月20日  
福知山市立  
川口中学校

**節目を大切に  
自分の夢に向い 確かに歩もう!**



もうすぐ、二期期の授業が終了します。それぞれに本気でがんばり抜いた二期期でした。そして、大きく飛躍した二期期でした。年末年始と、何かと落ち着かない日々が続きますが、規則正しい生活をし、家族の一員として、川口中学校の生徒としての自覚ある行動を望みます。また、自分の夢に向かって努力し、少しでも近づくことを祈ります。特に三年生の皆さんは、最後の追い込みの厳しい冬休みとなります。一年生二年生の皆さんにはチャンスの冬休みです。努力は必ず報われます。がんばったことは、良い結果につながります。これは宇宙の法則です。今年一年間の地域の皆様方・保護者の皆様方の温かいご支援とご協力に対しまして、心より感謝とお礼を申し上げます。

新たな年が皆様方にとりまして、そして、子どもたちにとりまして、すばらしい年になりますようご祈念申し上げます。

今年の漢字は、「暑」でした。記録的な猛暑の連続で熱中症にかかる人が続出。暑さ対策の支出が増えることから健康や生活、環境に影響をもたらしたことや、チリ鉱山のトンネル内落盤事故で地中の「暑い」中から作業員全員が生還。突入温度1万度という「暑さ」に耐え、無事帰還した「はやぶさ」など、勇気と未来へ希望をくれたことなどが理由として挙げられました。

## みんなの登校日

**楽しかった!**  
地域と学校応援プロジェクト  
11月27日(土)に、川口中学校を会場として、川口学区の小学生、中学生、地域の皆さんが集って、楽しい一日を過ごしました。



「十年後の私へ」メッセージ  
中学生の皆さんもいろいろな提案をし、地域の小学生や地域の皆さんと一緒に当日のプログラムを作り上げ、リードして進めました。



非常食体験の「昼食」  
後の「十年後の私へ」メッセージ、タイムカプセル設置、みんなで合唱「世界に一つだけの花」。



本物の舞台芸術「京フィル演奏会」



みんなで合唱「世界に一つだけの花」



地元まつわる「川口検定」

本物の舞台芸術「京フィル演奏会」。  
様々な場面で、川口学区の子どもたち、地域の皆さんの笑顔が広がり、「地域」としてのまとまりや強い絆が生まれました。明日につながる大きな一歩を踏み出しました。

## 夢に向かっていっしょに走ろう!

12月3日(金)に、人権講座として福知山市教育委員会、川口公民館、PTAの支援により、メイク・ア・ウイッシュ オブ ジャパンの事務局長の大野寿子さんに来ていただき、講演をしていただきました。人として一番大切なこと、人としてすべきことをしっかりと学びました。



大野さんの講演を聞いて

2年 大槻

難病の子どもたちがいたように、自分も不幸じゃないと改めて思った。家族に支えられて、身体も健康で、考えれば数え切れないくらい多くの人に支えてもらって、私は生きていくのだと思えた。

顔も名前も知らなくてもああやって手をつないで、大切なことを伝えあつて、この世界はできているんだと感じた。

でもそうなってくると、難病の子に限らず、そういう人とのつながりやちよつとした幸せを見つけたら、感じたりできない人はすぐくつらしいし、寂しいなあと思った。そんな人に手を差し伸べて、気づかせてあげたい。私は、自分の周りの幸せをたくさん見つけて、感謝して、それをちゃんと返せる人になりたいと思った。



## ペットボトルキャップの贈呈

12月15日(水)に、これまで生徒会を中心に取り組みを進め、全校生徒の皆さん、地域の皆さんが集めたペットボトルキャップを「れんげ会」代表の小野喜年様、青木繁実様に渡しました。そして、世界の子ども達へ届けていただきます。



小谷生徒会長の言葉より

「世界中の子どもたちにもワクチン」を「ぼく達がこのことを知ったのは、「世界の子どもたち」にワクチンを 日本委員会」のポスターでした。

世界ではワクチンの不足で予防接種が受けられず、毎日多くの子どもたちが命を落とされています。ぼく達は、小さいころに受けた予防接種で感染症から守られています。そのことが当たり前だと思っていました。しかし、住んでいる国や地域の違いで、こんなにも差があると深く考えさせられました。これらの子ども達に「ワクチン」を送ることで、多くの子ども達の命を救うことができると知って、ペットボトルキャップ回収活動を一年間続けてきました。キャップ八百個で一人の子どもの命を救える」を合い言葉に、川口中学校の生徒はもちろん、保護者や地域の方にも協力いただき、合計二万八千個を集めることができました。これらのペットボトルのキャップを「世界の子ども達」に届けたいと思っていました。今日、小野様と青木様にわざわざ川口中学校までお越しいただき、お渡しすることができて、大変ありがたく思っています。

(後略)

## 京都府人権擁護委員連合会長賞受賞作文

みんなが輝く社会へ

3年 柿本

「かわいそう」  
体に障害を持つ人に出会った時、そんな言葉を口にする人がたくさんいます。しかし、本当に「かわいそう」なのでしょう。私はそうとは思いません。  
私は小学二年生の時、一人の耳の不自由な女の子と同じクラスになりました。一年生の頃から、クラスは違いましたがその子のことは知っていました。クラスの人気者で私のクラスからも休み時間になると、その子の所に遊びに行く子もいました。私も遊びに行きたいという気持ちがありました。耳が聞こえないという事も知っていたので、正直どう接したらいいのかわからず、行けませんでした。しかし二年生のクラス替えで同じクラスになると、私も含めクラスみんながすぐにその子と仲よくすることができました。私たちは、その子の名前の頭文字をとって、「さつちゃん」と呼びました。私は、さつちゃんと同じクラスになった時、はじめはまだ「仲良くしてあげるのだからか」という不安がありました。それはたぶんクラスみんな同じだったと思います。でもすぐに仲良くなれたのはさつちゃんが見てくれたからです。何事も一生懸命頑張る人だったからだと思います。だから、私たちはさつちゃんに耳が不自由だとうとうとをほとんど気にしません。というより、全然気になりませんでした。一緒におにごっこやドッジボールもするし、おし

## 年末・年始行事予定

日	曜	行事等
12/24	金	終業式 推薦者激励会 18:00～
12/29	水	年末の休日 ～31
1/1	土	平成23年 元旦 年始の休日 ～3
6	木	生徒会リーダー研修
7	金	ふりスタ
10	月	成人の日
11	火	3学期始業式 登校指導 いい日あいさつデー
17	月	P T A登校指導
19	水	3年期末テスト オープンスクール

やべりもします。時にはケンカすることもありました。それも今では良い思い出です。私たちがさつちゃんといふ手話は主に筆談か手話です。簡単なことならゆつくり話せば口の形でわかってくれます。私たちが誰からもなく手話を一生懸命覚え、さつちゃんをとりあうようにしておしゃべりをしていました。手話で会話ができるようになった時は嬉しかったし、とても楽しかったです。また、クラス全員でSNAPの「世界に一つだけの花」とも心に残っています。さつちゃんの周りにはいつも笑顔があふれていました。  
私はその後引越したので、さつちゃんと一緒に学校生活を送れたのはごくわずかでした。でも引越して約7年経った今でも文通をしています。文通といっても年に三、四通くらいですが、私はそれを楽しみにしています。本命の高校に行くために毎日勉強が頑張っているそうです。それを知って(私も負けてられない、頑張らんと!)と思いました。  
私には将来の夢があります。それは盲導犬や聴導犬たち補助犬の訓練士になることです。なぜ訓練士になりたかというように、犬が好きというのではありません。さつちゃんのように体の不自由な人のためになる仕事をしたかと思うからです。さつちゃんには元気で明るい性格ですが、中には障害があることを気にしたり、人や車の中に出ることが不安で外出もできない方もいたりすると聞きます。そういう人たちにとつて、補助犬と一緒に生活することは生活が楽に送れるようになったり、安全に暮らすことにもつながると思います。また優しくかまってくれる訓練士になれるかどうかはわかりませんが、頑張るなりたいたいと思っているし、もしなれなかったとしても、体の不自由な方に出会った時に、役に立ってほしいです。それが当り前のことだと思っています。由な方になんか頼るさつちゃんに助け合っています。いつも前向きに頑張るさつちゃんに負けないように、私も私の夢に向かってこれからは頑張りたいです。そして体に障害があっても生きていける社会にしていきたいです。

